新たな発展に向けて

工作機械産業

航空機部品用にアルミニウム合金をマシニングセンターで加工（ツカサ）

日本工作機械工業会（日工会）がまとめた２０１４年の工作機械の受注実績は、前年比35・１％増の１兆５０９３億９７００万円だった。３年ぶりに前年を上回り、07年に次ぐ過去２番目の高水準となった。この実績に関して、花木義麿日工会会長は15年１月の定例会見で「真の意味で（08年の）リーマン・ショックが過去のものになった」と〝リーマン終結〟を宣言し、新局面に入ったとの認識を示した。

内訳をみると、内需は前年比23・８％増の４９６３億９１００万円で２年続けて前年を上回った。リーマン・ショック後の最高額となり、業種別でも主要４業種のうち一般機械と自動車がリーマン後の最高だった。

一方、外需は３年ぶりに前年を上回り、前年比41・４％増の１兆１３０億６００万円だった。史上初の１兆円超で過去最高となった。中国はスマートフォン分野の短期的な大量受注が重なり前年比２倍になり、北米や欧州も２ケタ増だった。アジアと北米が最高額、欧州がリーマン・ショック後の最高額をそれぞれ更新した。

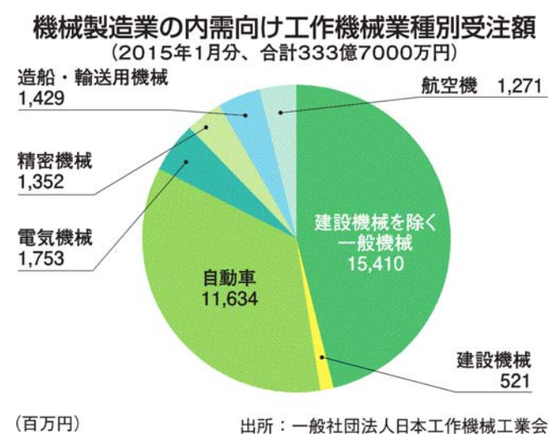
日工会は15年の受注目標額を１兆５５００億円とし、２年連続の高水準を予想している。

日工会は機械製造業の内需向け工作機械業種別受注額の15月１月分から、「建設機械」と「航空機」の受注額を新たに公表した。会員の要望の高まりに応えた。15年１月の工作機械業種別受注額の内需合計は、３８４億７７００万円。機械製造業の内需向けは、３３３億７０００万円を占めた。このうち、建設機械は機械製造業の内需向け全体の１・６％にあたる５億２１００万円、航空機が同３・８％の12億７１００万円だった。

国内各地の企業などは、自動車に次ぐ基幹産業として、航空機に大きな期待を寄せている。例えば、精密部品加工会社のツカサ（静岡県沼津市）は、14年２月に大型の５面加工門型マシニングセンターを導入し、航空機部品加工の分野に本格参入した。工作機械メーカーも成長性が高い航空機産業をにらみ、難削材加工の生産性を向上させるなどした技術や製品を打ち出し、需要のさらなる取り込みを図っている。

14年10、11月に東京都内で行われたアジア最大級の工作機械見本市「ＪＩＭＴＯＦ２０１４（第27回日本国際工作機械見本市）」では、世界25の国と地域から前回比50社増の８６５社が出展した。会期の６日間で、重複来場数を除く13万６１９６人が来場し、重複なしで12万８６７４人が訪れた前回を上回った。工作機械、鍛圧機械などの金属加工機械を中心に、工作機器、切削工具、精密測定機器など、モノづくりに関する広範囲の製品・技術が一堂に展示された。

３Ｄプリンターとの融合や進化した自動化技術、知能化技術、省エネルギー技術などを駆使した最新の製品や技術が多くの来場者の注目を集めた。



TOYODA

世界初※　スカイビング加工機能搭載

ギヤスカイビングセンタ
e500H·GS

世界初
ギヤ加工工程をマシニングセンタに集約

スカイビング加工の実用化に欠かせない「工具」「CNC制御」「高速回転テーブル」を独自で開発。世界で初めて汎用の横形マシニングセンタにスカイビング加工機能を搭載し、ギヤ部品の量産化を実現しました。
これまで複数の専用機を必要としていたギヤ加工の工程を1台に集約し、お客様の設備コストや加工コストの大幅な削減が可能になります。

（※当社調べ）

JTEKT
株式会社ジェイテクト

◆資料請求はこちら｜工作機械・メカトロ営業部
〒448-8652　愛知県刈谷市朝日町1丁目1番地　TEL.0566-25-5140　FAX.0566-25-5467